

入学者の国家試験受験率及び退学状況に関するアンケート調査報告

広報・調査委員会

担当理事 大麻 正晴

会員校のみなさまにおかれましては、平素より本学校協会の会務にご理解、ご協力を賜り、まことにありがとうございます。このたび、標記のアンケート調査について、下記のとおり取りまとめいたしましたので、ご報告させていただきます。

高等教育機関における、入学後の休・退学防止対策が大きな課題となっており、入学前から卒業後に至る、学生の総合的支援（エンロールメントマネジメント）の取り組みが進んでいます。大学等ではそれら支援の取組状況についての全国的な調査も実施、共有され、その対応に活かされている一方、専門学校等の養成施設においては、各校それぞれにおいて創意工夫や自助努力がなされている状況かと存じます。そこで本学校協会といたしましては、学生の修学意欲及び資質の向上、また学校運営にとって重要な学生の在籍率の向上に繋げるべく、学生の修学状況を分析し、把握するための基本データとして、国家試験の受験率及び退学の状況等についてアンケート調査を実施することといたしました。本調査が各養成施設みなさまの運営の一助になればと存じます。

本調査の実施にあたって、ご校務多忙のおり、ご協力を賜りましたみなさまに心よりお礼申し上げます。

○入学者の国家試験受験率及び退学状況に関するアンケート調査

[実施目的]

当協会会員校の学生の修学状況を調査し、学生の修学意欲及び資質の向上、並びに学校運営にとって重要な在籍率向上に資する基礎資料とする

[実施概要]

主 体：公益社団法人全国柔道整復学校協会

対 象：公益社団法人全国柔道整復学校協会会員校 46 校 実施協力校 44 校

時 期：2020 年 11 月 13 日～11 月 30 日

[調査項目]

- ① 問 1～問 5 在籍者プロフィール（課程・年度別入学者数、既卒者数、国試受験者数）
- ② 問 6 退学事由（経済的理由、学業不振、健康上、進路変更、人間関係、その他）
- ③ 問 7～問 19 退学率低減の取り組み（学内体制整備、学生健康状況調査他 自由記述）
- ④ 問 19 専門実践教育訓練給付金の状況

◎各調査の概要につきましては、関口正雄副会長に作成いただきました。

調査結果について

■柔整全体入学者（令和2年度）における高校新卒者の割合【問 1.2 関連】

昼間部	入学者	2097名	内高校新卒	1810名	(86.3%)
夜間部	入学者	261名	内高校新卒	83名	(31.8%)

・入学者のプロフィールでは、今回アンケート回答校の高校新卒入学者割合は、専門学校全分野（留学生を除くと72%）に比して、86%以上と非常に高い（以下参照）。夜間部においても31.8%の割合である。また同内容でアンケート調査をした‘あはき分野’（39.5%）とは、同じ医療分野とは思えない差がある。高校新卒者がこれほど多いということになると、学生募集、教科指導、退学率低減への対応も、分野特有の方法をより意識的に検討する必要があるかもしれない。

（参考：公益社団法人東洋療法学校協会が、同内容で実施した調査結果より）【問 1.2 関連】

昼間部	入学者	1927名	内高校新卒	763名	(39.5%)
夜間部	入学者	483名	内高校新卒	27名	(0.56%)

（参考：他の専門学校データ）

入学者プロフィールに関する全国の調査統計データは存在しないため、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会調査統計事業部『専修学校各種学校調査統計資料』と比較する（但し令和元年度データ）

専門課程入学者（全分野）

昼間部	入学者	46271名	内高校新卒	28483名	(61.5%)
夜間部	入学者	2764名	内高校新卒	545名	(19.7%)

*入学者には、外国人留学生（昼 6889名、夜4名が含まれており、これらを除くと高校新卒は、昼72.3%となる。夜はほぼ変わらず）

柔整分野（17校）

昼間部	入学者	793名	内高校新卒	588名	(74.1%)
夜間部	入学者	225名	内高校新卒	52名	(23.1%)

あはき分野（17校）

昼間部	入学者	708名	内高校新卒	223名	(31.4%)
夜間部	入学者	277名	内高校新卒	4名	(0.15%)

■柔整全体令和元年度退学率【問 4.5 関連】

昼間部 在籍者 5841 名 内退学者 284 名 (4.8%)
夜間部 在籍者 1058 名 内退学者 49 名 (0.05%)

・アンケート回答校の退学率は、分野全体 (9.1%) に対しても、東専各柔整分野 (13.1%) と比べても低い (但し令和元年度は、前年、前々年度と比べ、異常に退学率が高くなっている)ので注意。以下参照。

では、専門実践教育訓練の基準である入学者合格率 (80%) が達成できないのか？
100 人の入学者で 4.8% のドロップアウトなら、95 人は在籍しているはずで、合格率 90% とするなら、85 人の合格即ち 80% 以上の入学者合格率が確保されることになる。

しかしそうならないのは、進級率 (特に 2 年次への進級) や 3 年次在籍者の受験率が影響していると推測される。

これらの観点からの追加調査の検討も視野に入ってくると思われる。

(参考：公益社団法人東洋療法学校協会が、同内容で実施した調査結果より)

あはき全体令和元年度退学率【問 4.5 関連】

昼間部 在籍者 5214 名 内退学者 176 名 (3.4%)
夜間部 在籍者 1459 名 内退学者 39 名 (0.03%)

(参考：他の専門学校データ)

上記『専修学校各種学校調査統計資料』より (但し令和元年度データ)

専門課程在籍者 (全分野)

在籍者 102075 名 内退学者 7883 名 (9.1%)

* 昼夜別のデータなし

柔整分野 (17 校)

在籍者 2146 名 内退学者 289 名 (13.1%)

* 平成 29 年度 8.5% 30 年度 7.4%

あはき分野 (17 校)

在籍者 2859 名 内退学者 151 名 (5.1%)

* 平成 29 年度 3.9% 30 年度 4.5%

■退学理由【問6関連】

・昼間部、夜間部ともに、退学理由として、学業不振と進路変更の割合が高い。高校新卒が圧倒的に多いため、この二つの理由が多くなっていると思われる。

また夜間部既卒では、44%と突出している理由が「その他」となっている。具体的な内容の記載によると、「家庭の事情（介護）」、「仕事と学業の両立が困難」「コロナウィルスの家業への影響」などがあげられている。

■自由記載項目【問7～問18】

数値化されたデータではないので、分析はできない。記述内容から全体として見て取れる点は、以下の通り。

アンケート回答記述を見るかぎり、退学率低減化へ個別の取り組みは、多くの学校でしっかり取り組まれている。

学生相談室の設置、専任カウンセラーの起用、医療機関、家庭との連携、学費支援、学校の体制整備、退学率低減目標の設定、教職員のカウンセリング能力向上のための施策等は、取り組み実績が感じられる記述である。

しかし責任の明確化と人事考課への反映はまだ手付かずとの印象を受ける。

退学率低減（進級率向上を含め）は目標を数値として明示し取り組む組織課題であるので、結果について責任の明確化と成果を賞与、昇給、昇格などの人事に反映させるのは、当然のことではないだろうか。

以上